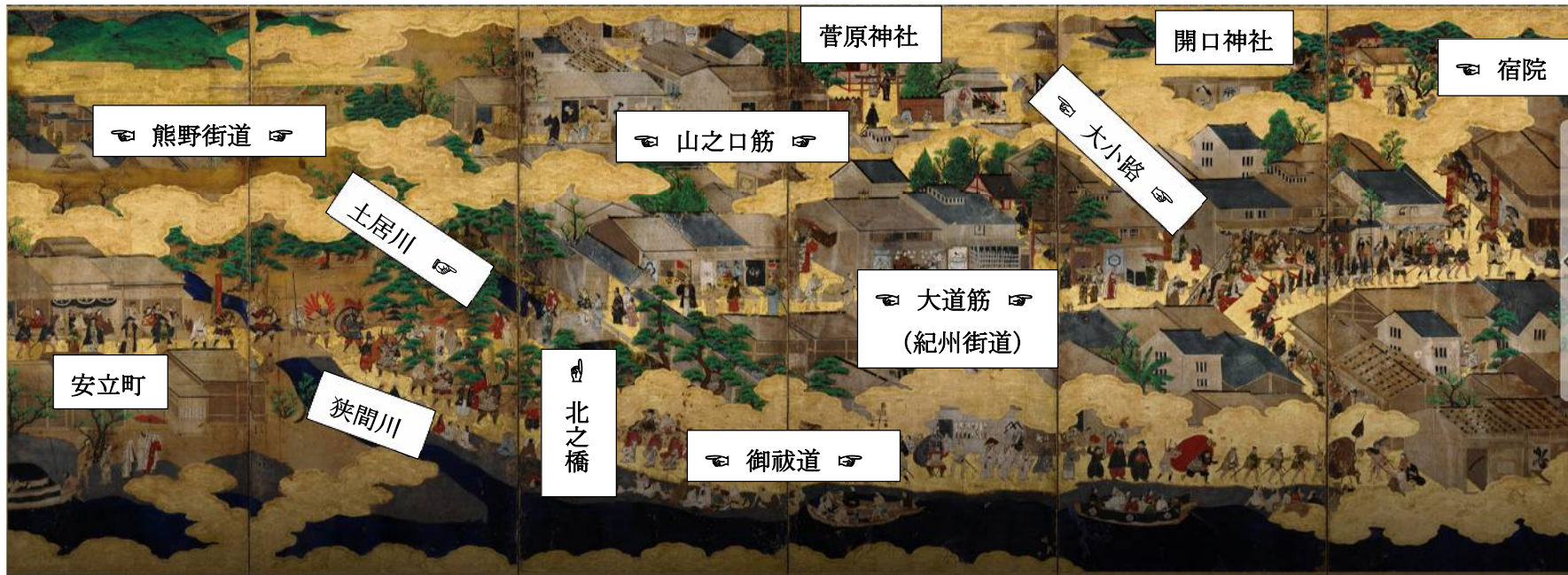


# 「住吉祭礼図屏風」右隻を観る（修正版 02）

メモ) 鉄本 2023.03.08

## 1. 「住吉祭礼図屏風」右隻が描かれた見所と位置関係



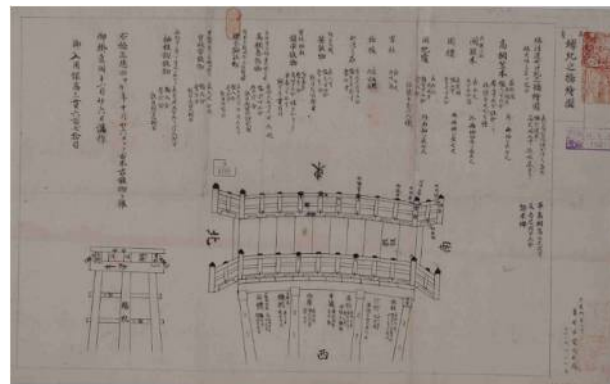
①描かれた時代： 「大坂の陣」以前の17世紀前半頃に描かれたもので、大和川(1704年に開通)は描かれていない。

②右隻の描写範囲： 堺の北荘を中心に描き、繁華街であった南荘はあまり描かれていない。

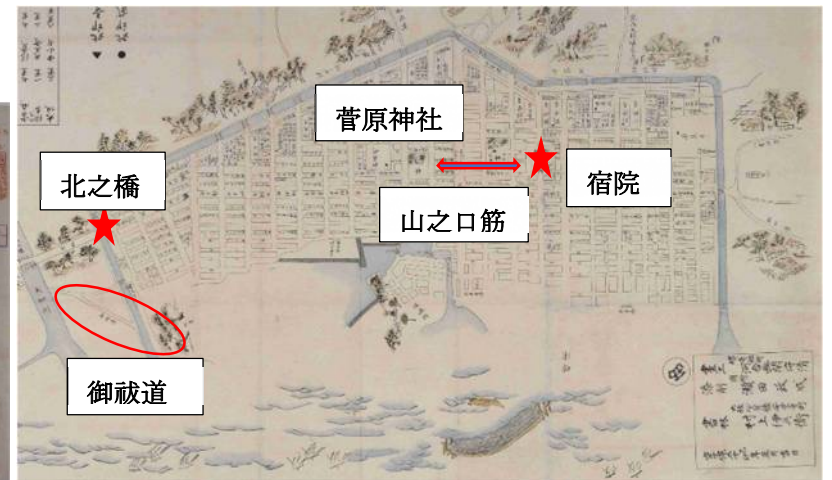
③「御祓道」： 享保20年(1735)の堺大絵図に見え、安立町方面から七堂(道)を經由して海浜伝いに進む道。

④「北之橋」： 祭礼図に見える  
「北之橋」は現在187号線になっており、橋も土居川も存在しない。(次項参照)

⑤屋根の構造： 堺の町には、瓦葺、柿葺き、石置板葺が見られるが草葺は見られない。



正徳4年(1714)の「北之橋絵図」



享保20年(1735)の堺大絵図の一部 出典:堺市立中央図書館

2. 祭礼図スポットを現在の地図上に見る





【見世棚】 通りに面した場所に家屋から棚を突き出して設けたもので、その棚に商品を陳列して販売するもの。この方法は、商品の日焼け、盗難等の問題があり、祭礼図では全く見られなくなっている。

【上げ床几】 商談や作業の場、客を店内に導くためのものとして使われる。多目的に利用する。俗に「ぼったり床几」ともいう。



(右図) 16世紀前半の洛中洛外図屏風(歴博甲本)より切抜き 出典: 国立歴史民俗博物館

(2) 3つの史料の前後の歴史的出来事

堺商人の名が見える「念仏寺築地修理料差文」、「住吉祭礼図屏風」、「元禄2年大絵図」の3点の史料とその前後の歴史的出来事を挙げる。

- ・天文4年(1535) 「念仏寺築地修理料差文」
- ・天文12年(1543) 種子島に鉄砲・火薬が伝来
- ・慶長5年(1600) 関ヶ原の戦い
- ・慶長12年(1607)～慶長19年(1614) 「住吉祭礼図屏風」の景観
- ・元和元年(1615) 大坂夏の陣

72～79年の年数

(注) 祭礼図の制作時期は1630～1640年頃

【堺復興期】

- ・元和2年(1616) 「元和の町割り」が始まる
- ・元和4年(1618) 地割奉行の風間六右衛門尉が引責自刃
- 「大通庵」の再建 元和7年(1621)～元和8年(1622) \*「大通庵御作事日記」による。
- ・元和8年頃 堺寺町の寺院が復興を遂げる。


75～82年の年数

- ・元禄2年(1689) 「元禄2年大絵図」

それぞれの史料には7・80年近い年数の差があり、世代交代が考えられるため、同一人物の名前が複数の史料に出ていることは期待できない。屋号の継承性に着目して商家の変遷を追跡してみる。堺商人の家系図を裏付けとしていないので、次項の関連付けの妥当性には限界があることを留意してください。


(3)住吉祭礼図屏風右隻の商家



- 【表の説明】 ・番号は1項の祭礼図に付加した白抜きの番号に対応する。 ・敷地は間口×奥行きの数字を示す。  
 ・商人名の後ろに付けたアルファベットは次項の堺大絵図に付加したアルファベットに対応し商家の場所を示す。



住吉祭礼図(1607～1614)			関連すると思われる人物		業種 備考
番号	扇番号	屋号・屋号紋・暖簾	念仏寺築地修理料差文 1535年	元禄堺大絵図 1689年	
①	第四扇	「きくや」の暖簾 	きくや宗左衛門(甲斐町) <為替業> 天文8年(1539)に、加賀四日講の志納金が菊屋を通じて石山本願寺に納められている。当時米屋など財力のある商家が為替業を始めていた。	菊屋正右衛門(A) 敷地: 3間半×21間(西六間筋)  菊屋六兵衛 5ヶ所 (B) 敷地: 5間×6間(東六間筋) 4間半×6間(両替町) 2間半×6間(戎町浜) 4間×10間( " ) 4間×12間( " )	為替業 本業は不明  菓子屋?  「菊屋」という屋号の和菓子屋は現代も多数ある。

【為替業について】

年貢米や地方産物の取扱いや日明貿易で財力を蓄えた堺商人は、両替・貸金・為替などの金融機能を持つようになった。東大寺・興福寺・高野山などの所領から上がる年貢は、堺の商人(問丸)が現金に替え各寺院に納入している。時には寺院が年貢を抵当に堺商人から金を借りることもあった。南北朝末頃には、地方から奈良や京都に現金を便船で送ることによる危険を回避するために為替を組むことが普通となった。当時、為替は「割符(わりふ)」と呼ばれ、割符の支払人は堺の商人が担った。

住吉祭礼図(1607～1614)			関連すると思われる人物		業種 備考
番号	扇番号	屋号・屋号紋・暖簾	念仏寺築地修理料差文 1535年	元禄堺大絵図 1689年	
②	第三扇	くすりの実物展示 	千代鶴(ちよつる) (甲斐町)	(薬屋)妙貞 (C) 敷地: 6間×10間(西六間筋)  薬屋宇兵衛 3ヶ所 (D) 敷地: 3間半×15間(東六間筋) 4間×6間( " ) 2間半×6間( " )  薬屋利兵衛 4間半×9間(東六間筋)	薬種業

住吉祭礼図(1607~1614)			関連すると思われる人物		業種 備考
番号	扇番号	屋号・屋号紋・暖簾	念仏寺築地修理料差文 1535年	元禄堺大絵図 1689年	
③	第四扇	久留子紋(くるすもん)に似た屋号紋  	藤九郎 こ物や (材木町)  (注) 久留子紋は小西行長が使用していた家紋の1つであるが、祭礼図に描かれている屋号紋が「久留子紋」とは断定できない。	小間物屋としては、小間物屋浄運、同善兵衛、同長十郎、同傳兵衛、同徳右衛門、同徳兵衛、同彦右衛門の名がみえる。これらの人物が小西一族かどうかは不明。  小間物屋の店舗は北御坊の西の東六間筋にみえる。	薬種業  「小西白粉」 天正・文禄期に小西清兵衛が明から白粉の製法を持ち帰り、安価な「小西白粉」として広まった。

住吉祭礼図(1607~1614)			関連すると思われる人物		業種 備考
番号	扇番号	屋号・屋号紋・暖簾	念仏寺築地修理料差文 1535年	元禄堺大絵図 1689年	
④	第二扇	鍵の屋号紋 ⇒ 鍵屋 又は 鑑屋 を想定 	差文には見当たらない。	鍵屋久兵衛 8-1-017 3半×13 // 庄右衛門 8-1-002 6×10 // 利右衛門 8-1-008 2半×21  (鑑屋)九左衛門 3-5-098 (5)×(10) 鑑屋傳右衛門 7-2-042 5×21 // 彦左衛門 3-2-090 3×6	錠前業 下の図は、洛中洛外図屏風(舟木本)に描かれている外暖簾(e 国宝より) 

<右隻にみる商家の業種を推定>

\* 屋号を調査中\*

「あ~こ」は、絵図に付加した記号

記号	想定業種	記号	想定業種	記号	想定業種
あ	茶屋	か	檜物屋	さ	八百屋?
い	本屋	き	小間物屋	し	**
う	反物屋	く	漆器屋	す	**
え	足袋屋	け	質屋	せ	**
お	糸屋	こ	鞆師?	そ	**

「元禄堺大絵図」頃の商家の位置



A及びBは菊屋 C及びDは薬屋 Eは小間物屋 F及びGは鍵屋

【参考文献】

- 堺市博物館館報第4号「住吉祭礼図屏風にみる堺商業の一様相」村田和男 1985
- 特別展「堺復興」図録 堺市博物館 2015
- 同上第23号「幕末の堺商人について 慶応2年「菅梅講名記」より」矢内一磨 2004
- 同上第24号「禅宗寺院の法会と普請 江戸時代の堺大安寺について」矢内一磨 2005
- 同上 「江戸時代堺の産業一覧」吉田豊 2005
- 論文「江戸の暖簾」生活史研究所 小泉和子
- 堺学フォーラム「中世の堺のまちなみ」谷直樹 公益財団法人堺都市政策研究所 1996
- 『堺 中世自由都市』泉澄一 教育社歴史新書 1981
- 『堺 商人の進出と都市の自由』至文堂 豊田武 1966

